

篠笛の作り方

篠笛を作るのはそれほど難しくありません。
作り方には様々ありますが、ここではごく基本的な工程をご紹介します。
ぜひチャレンジしてみてください！

用意する物



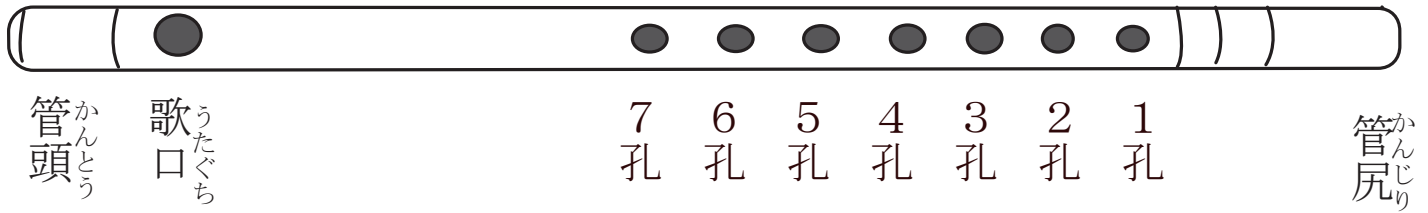
- ①篠笛竹材 矯め直しや油抜きがすんでいる竹材
- ②篠笛設計図 (A9010/¥1,050)、または見本となる笛
- ③ピラニアン鋸 (A0032/¥1,575) 竹材を切断する為の目の細かい鋸
- ④ネズミ刃錐 (A9007/¥1,470) 歌口や指孔を開ける時に使用
- ⑤繰り小刀 (A9010/¥2,415) 各所を削る時に使用
- ⑥カシュー (黒 A0310・朱赤 A0311・たいしゃ A8024/¥829) 内部を塗装する塗料
- ⑦漆刷毛^{うるしばけ} (A0325/¥2,100) 塗装用のブラシ
- ⑧単目半丸ヤスリ (A0154/¥756) 切断面などを整える時に使うヤスリ
- ⑨コルク (A9008/¥63) 管頭に詰める
- ⑩のり付きロールペーパー (A0432 ~ A0443/¥441 ~ ¥556) 丸棒に巻いて使用
- ⑪丸棒 (A9006 ¥360) 紙ヤスリを巻いて竹内部を整える
- ⑫カシュー下地 2号 (A0304/¥2,100) キズやへこみを埋めるためのパテ
- ⑬カシューうすめ液 (A0314 ¥640)
- ⑭籐 (3厘籐 A0122/¥7,455)

【その他 用意するもの】

ボンド、ティッシュペーパー、定規、鉛筆、小筆または竹串、調律器

この他にも様々な便利な工具があります。詳しくは別途カタログをご覧ください。

篠笛各部の名称



作り方

1. 設計

見本となるような笛をかたわらに置いて作ると参考になります。また（株）目白で販売している篠笛設計図には必要な寸法が書かれているので大変便利です。（篠竹は自然のものですから設計図通りの寸法ではありません。竹のサイズによって調整が必要です。）

①竹の表面を良く拭いてきれいにします。竹材を見て孔をあける側を決めます。（篠笛用竹材は油抜き・矯め直しが済んだ竹材を使用しましょう。）竹はわずかに反っています。平らな所に置いてみてアーチを描く方に指孔を開けます。また竹材の太さを見て、太い方と管頭（歌口側）、細い方を管尻とします。



②見本の笛や設計図を参考にして竹材を切断します。ヤゲン台に笛を固定し（ヤゲン台には竹材を痛めないようにテープを張っておきます）ピラニアン鋸で切断し、ロールペーパーで切断面を整えます。見本の笛や設計図を参考にしながら、歌口の位置に中心線と垂直に横線を引き、だ円に歌口の形を描きます。歌口の位置が決まったら、同じように第7孔から順番に第1孔まで手孔の位置と大きさを書き込みます。ネズミ刃錐を孔の中心点に当てて、ゆっくりと回すようにしながら各位置に小穴を開けます。

2. 管内を削る

丸棒にロールペーパーを付け、竹の内部はなるべく円に近くなるように削ります。最初は粗いロールペーパー#100、次に細かいロールペーパー#240を使用して竹を回しながら、丁寧に削っていきます。

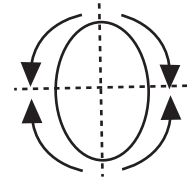
3. 孔あけ

次に繰り小刀で孔を開けます歌口から急がずゆっくり開けていきます。篠竹は自然のものですから設計図通りの寸法ではありません。竹のサイズによって調整が必要ですが、まずは小さめにあげましょう。力を入れすぎて竹が割れないよう注意します。竹が硬い場合は小刀を濡らすとよいでしょう。竹のすじの逆目に刃を入れると竹に亀裂が入りやすいので、気をつけてください。図のように孔の印をつけたの中心から右上を、次に左上を削ります。その後裏返して同じように左右を削り、左右対称にします。歌口の大きさは唇を当てながら大きさを調整します。歌口ができたら管尻に近い第1孔から順番に第7孔まで同じ要領で、書き込んだ線より小さめに開けます。削れたら歌口と手孔を半丸ヤスリでやすりがけします。

孔が開いたら歌口内部にティッシュペーパーを濡らした物で仮止めします。詰める位置は歌口から管頭にむかって2～3mmの所です。後でコルクを入れて仕上げます。

※注意※

ナイフ使用時は竹を縦に持ち、竹の繊維に沿って刃を矢印の方向に動かします。



4. 調律

孔が開いたら調律にかかります。調律はまず3つの音をから調律して行きましょう。3つの音は：①一の音（第1孔をあけて他の全ての手孔をふさいで出る音）②三の音（第1孔～3孔をあけて出る音）③六の音（第7孔だけふさいで出る音）です。調律の際は、唇の当て方を一定にしながらかいて下さい。調律器やピアノなどの音を参考に調律します。律は基本的に歌口から指孔の距離によって決まります。音を高くしたい場合は、孔を歌口側に広げたり、手孔の内側を斜めに削るなどします。しかし、**高くなった音を低く直すことは埋め直すことはほとんど不可能です**。注意してすこしづつ行いましょう。笛作りの中でも調律が一番難しい作業です。最初のうちは中々ぴったり合うように作れませんが、律がぴったり合わない場合でも、篠笛独特の音や手作りの良さを楽しんでください。調律が終わったら、歌口と手孔の断面を丹念にロールペーパーをかけ、ささくれを取ります。

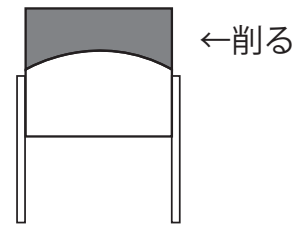
5. 管頭内部のコルクを固定する

ティッシュで仮止めしておいた箇所にもコルクを入れます。コルクを内径に近いサイズに半丸ヤスリで削り、仮止の位置へ丸棒で移動させます。位置が決まったら歌口と反対側をボンドで固定します。



6. 管頭をふさぐ

もう一つのコルクで管頭をふさぎます。管頭部分の内径に合わせてコルクをヤスリで削ります。ボンドをつけたコルクを詰め込みます。ボンドが乾いて固定されたら飛び出ている部分を削り、ヤスリやペーパーを使って表面を仕上げます。

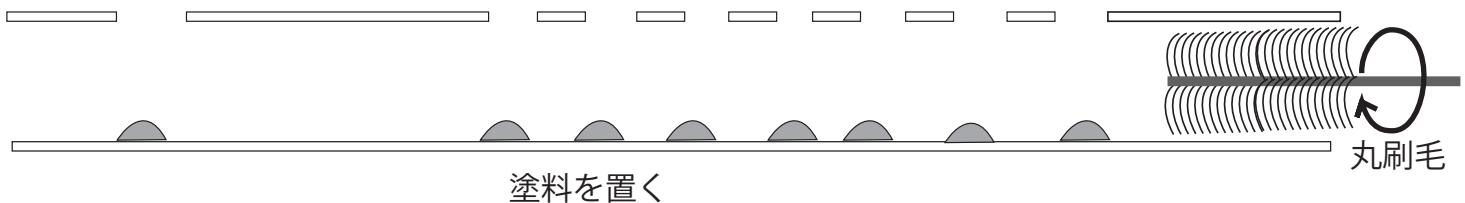


7. 管内塗装

最初に内側をきれいにします。湿らせた布を丸棒に巻いて、管内に残った細かなゴミをきれいに拭き取りよく乾かします。

塗料は漆が理想的ですが、かぶれや使用方法が難しいため初めはカシュー塗料がおすすめです。管内にへこみや傷がある場合はあらかじめカシュー下地2号を使って埋めるなどし、再度よく乾かしてから塗装します。塗料は歌口と手孔から管内に少量置き（竹串や割りばしに布を巻いたものや小筆などを使うといいでしょう）、丸刷毛を回転させながら薄く伸ばします。何度も回転塗りを繰り返し塗り、ムラがないようにします。

歌口や手孔のまわりは、小筆で塗ります。



8. 仕上げ

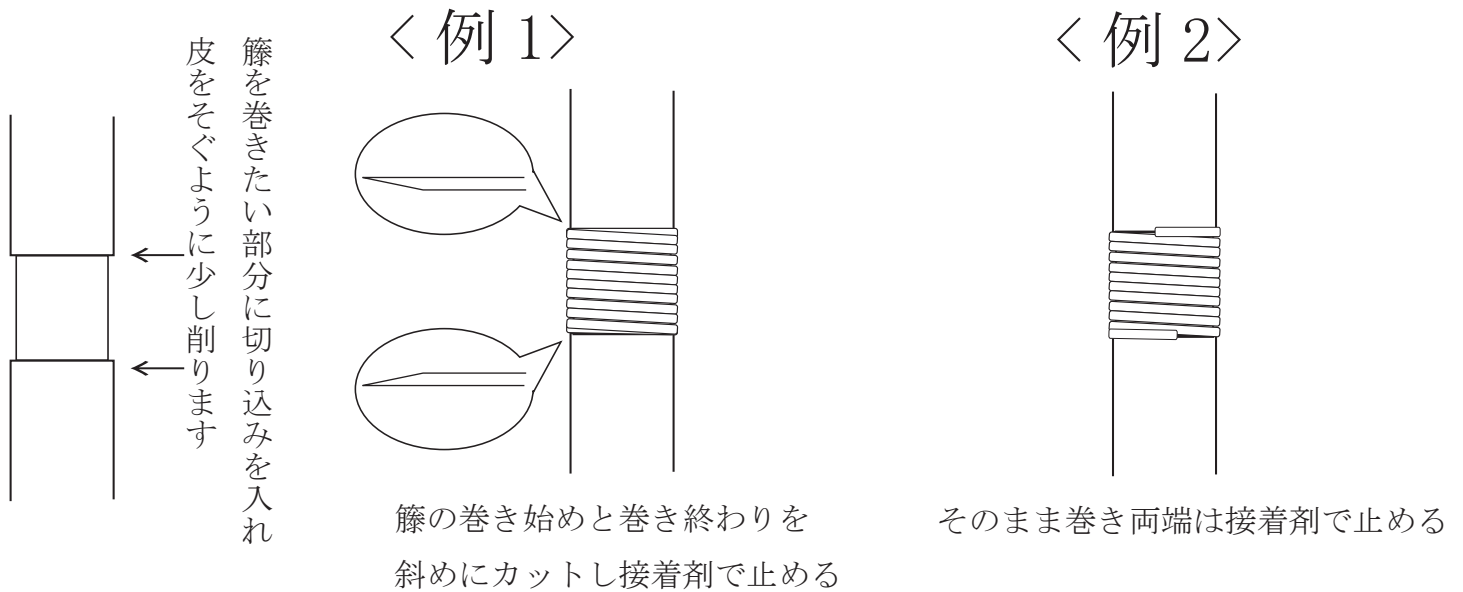
管内塗装によって若干調律に変化が出てくるので、その微調整を行います。汚れは塗装用シンナー（カシューうすめ液など）で落とすことができます。尚、つや出しや割れ防止のためにオリーブ油を上から塗り込むと効果的です。

6. の工程で作ったコルクの部分を再度ヤスリがけし、アーチ状にします。カシューの厚さが均等になるよう、2～3回塗り重ねます。カシューを塗り重ねる際は、必ずよく乾かしてから行ってください。カシューが乾いて漢数字を書き入れたら完成です。

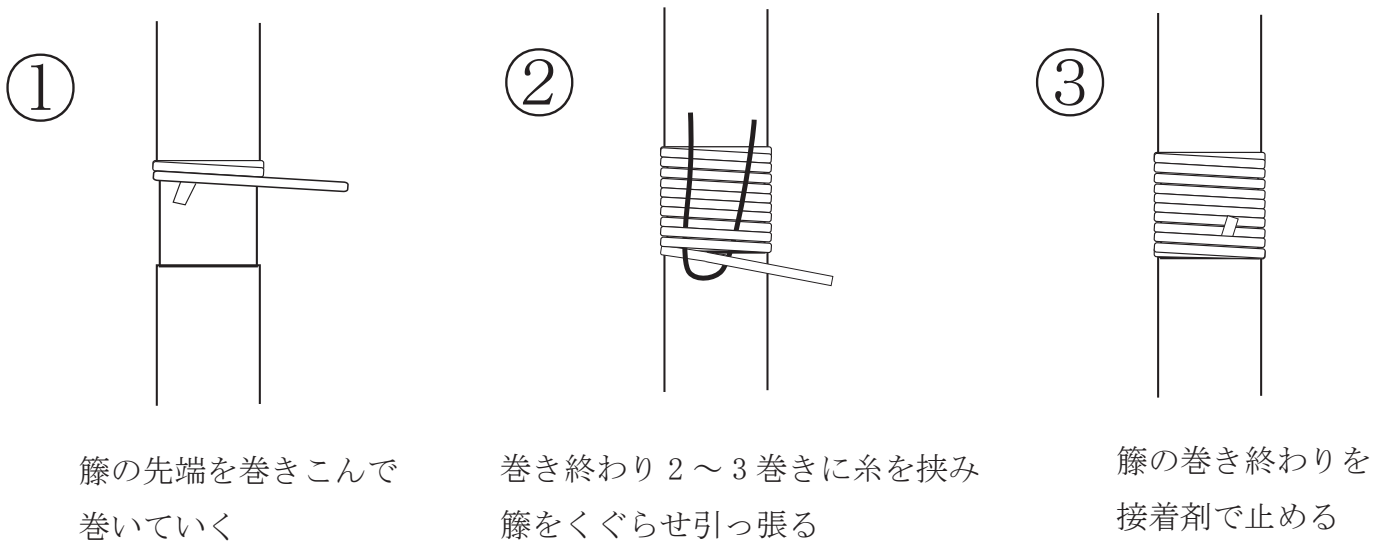
何本調子の笛か分かるように頭に漢数字を書きます。油性ペンなどで数字を書き入れて下さい。

参考：籐・糸・テグス巻き

篠笛では割れ止めと装飾を兼ねて籐を巻くことがあります。竹の表皮を0.5mmほど削り、その上に籐を巻く彫り込みが理想ですが、彫り込みをしないで竹の表皮の上に巻く方法もあります。籐は二厘籐（0.6mm）、三厘籐（0.9mm）が多く使用されます。籐はよく水に浸して湿らせるとよく締まります。また籐ではなくテグスや糸を巻くことがあります。巻き方にはいくつか方法があります。下図を参照にて下さい。



＜例3＞










音の出し方や構え方などに関しては、教則本に数多く紹介されています。自分に合ったものを見つけて練習してみましょう。ここでは八本調子の運指表を紹介します。

(七本調子は、八本調子より半音低く、六本調子は八本調子より1音低くなります。調律の際気を付けてください)

篠笛運指表

(八本調子の場合)

一		ド
二		レ
三		ミ
四		ファ
五		ソ
六		ラ
七		シ

※上記の表は一般的なものです。各教則本などを参考にしてください。

【漆塗り工程】

●漆取扱いの注意●

通常篠笛塗料に使用する「漆」は人により皮膚炎を引き起こす可能性があります。

漆に強いか弱いかは個人差があり、その程度を事前に測ることは出来ません。

使用時は肌に付かないよう必ず長袖、手袋を着用しましょう。

万が一漆に触れ腫れて痒くなったら、患部を石鹸とぬるま湯でしっかり洗い至急皮膚科へ行って下さい。

カシュー（人工漆）は漆に比べかぶれにくく、初心者扱いやすい塗料です。

工程はほぼ同じです。

【基本的な漆の塗り方】

- 1) 長袖・手袋を着用。漆がつく恐れのある部位を露出せず、周囲に人がいないよう注意しましょう。
- 2) 漆を用意します。（下地用：瀬^{せじめうるし}漆、仕上用：黒塗立^{くろぬりたて}、もしくは朱の元^{しゆのもと}）
- 3) 漆チューブからティースプーン適量の漆を陶器（小皿かお碗）に出します。
- 4) 漆を濾す専用の紙「新吉野紙」で漆を濾します。
しんよしの
- 5) 漆刷毛^{うるしばけ}に漆をつけます。漆は刷毛でよく伸ばして使います。（注1）
薄く塗り乾燥途中に表面が縮まないようにします。
乾燥後毎回耐水ペーパーで水研ぎし、さらに数回塗ります。
塗りの回数は下地2回、仕上げ2回です。
- 6) 塗り終わったら刷毛をテレピン油でよく洗います。（注2）
- 7) 刷毛の毛先にサラダ油を少し含ませ、ラップして保存します。

注1：漆使用時は塵埃に気をつけます！刷毛は使用直前までサランラップなどをかぶせておいたほうがよいでしょう。（これらが混じると塗った部分に盛り上がりが生じ、美しく仕上げることができません）

注2：漆が付いた刷毛をそのままにすると固まって使えなくなります！

【使用工具例】

下記すべて（株）目白にて販売しております！ご質問はお気軽にどうぞ。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 瀬 ^せ 漆 | 下地用漆 （A0301/¥2,415） |
| <input type="checkbox"/> 黒塗立 | 中塗り用 黒漆 （A0305/¥2,835） |
| <input type="checkbox"/> 朱の元漆 | 中塗り用 朱赤漆 （A0308¥3,150） |
| <input type="checkbox"/> カシュー朱赤 | 朱色人工漆。一般油性系 （A0311/¥829） |
| <input type="checkbox"/> カシュー黒 | 黒色人工漆。一般油性系 （A0310/¥829） |
| <input type="checkbox"/> テレピン油 | 漆を薄めたり、漆用道具を洗う際使用 （A0312/¥1,470） |
| <input type="checkbox"/> カシューうすめ液 | カシュー用シンナー （A0314/¥640） |
| <input type="checkbox"/> 新吉野紙 | 漆を濾すための濾し紙 （A0347/¥1,575） |
| <input type="checkbox"/> 漆刷毛 | 長い歯ブラシの形状。女性の頭髪が使われたプロ御用達の刷毛 （A0323/¥2,415） |
| <input type="checkbox"/> 丸刷毛 S | 馬のふり毛を編みこんだ塗り刷毛 （A0325/¥2,100） |

※価格は2012年9月現在の価格です。予告なく変更される場合があります。